

DEW
stream 2009

Planning, Design, and Consulting
SHIMIZU CORPORATION

vol.69

GAKKEN HEAD OFFICE		02 - 05
AOYAMA OM-SQUARE		06 - 07
AOYAMA GAKUIN ELEMENTARY SCHOOL		08 - 09
KOKA GAKUEN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL		10 - 11
MYOJOIN TEMPLE		12
ANAHACHIMAN - Shrine SYUTSUGENDEN		13
SHIBAURA ISLAND BLOOM TOWER		14 - 15
GARDENIER KINUTA		16 - 17
AQUA HAKATA		18 - 19
ISUZU FUJISAWA R&D CENTER		20 - 21
KDX TOYOSU GRAND-SQUARE		22 - 23
SANSUIEN		24 - 25
ASADA TEKKO Tokyo branch		26 - 27
SIA MACHIDA		28
TENNOZ TERRACE		29
GORYOKAKU TOWER		30 - 31
SHIMIZU INSTITUTE OF TECHNOLOGY ULTRA-CLEAN ROOM LABORATORY		32 - 33
DNA MATERIAL WALL		34
MINATO CITY ECO-PLAZA		35
ST.LUKE'S BIRTH CENTER		36
ANIMAL PATHWAY		37
WAKO BUILDING		38 - 39
UNDER CONSTRUCTION PROJECT		40
Build Live Tokyo 2009 II / stream DEW Session		41
STUDY & INSPECTION ABROAD		42
Design Works of the Year		43
DATA OF WORKS		44 - 45
stream DEW MEMBER		45

Planning, Design, and Consulting
by SHIMIZU CORPORATION + Field Four Design Office + PD SYSTEM

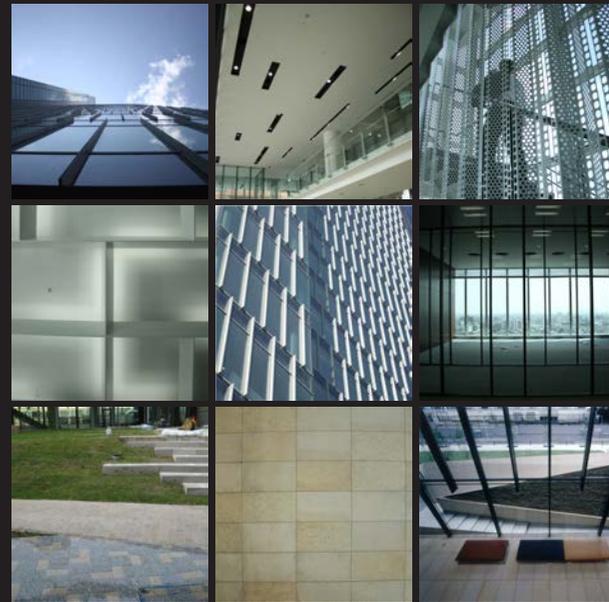
DEW

stream 2009

特集：近作プロジェクト

vol. 69

学研本社ビル	02 - 05
青山OM-SQUARE	06 - 07
青山学院初等部	08 - 09
晃華学園中学・高等学園	10 - 11
妙定院 伽藍整備	12
穴八幡宮 出現殿	13
芝浦アイランドブルームタワー	14 - 15
ガーデンエール砦	16 - 17
アクア博多	18 - 19
いすゞ自動車新事藤沢工場 新事務棟	20 - 21
KDX豊洲グランスクエア	22 - 23
三翠園	24 - 25
浅田鉄工東京支店	26 - 27
SIA町田	28
天王洲テラス	29
五稜郭タワー	30 - 31
清水建設株式会社 技術研究所 新クリーンルーム実験棟	32 - 33
女子美術大学 杉並キャンパス 食堂改修	34
港区立エコプラザ	35
聖路加産科クリニック	36
アニマルバスウェイ 樹上性小動物の通り道	37
和光本館	38 - 39
建設中プロジェクト	40
Build Live Tokyo 2009 II / stream DEW Session	41
海外留学・海外視察について	42
Design Works of the Year	43
作品データ	44 - 45
stream DEW 委員一覧	45



GAKKEN HEAD OFFICE

学研本社ビル



都内に分散していた複数の事業所を集約し、新たな価値の創造を实践する場としたい。コンペの要綱における施主の想いである。

学研本社ビルは非対称で不ぞろいな空間と形態から成り立っている。

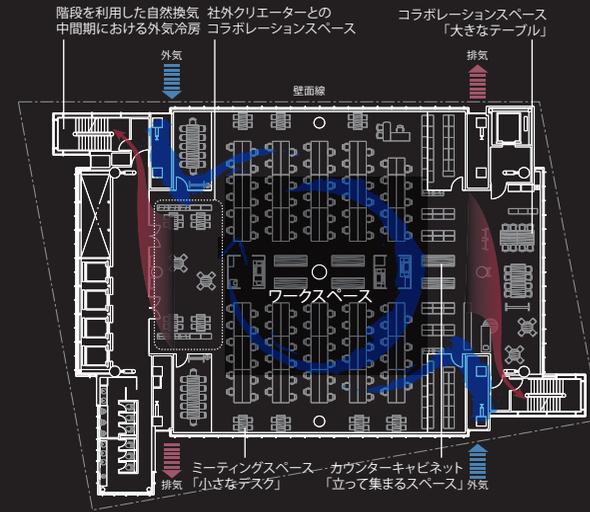
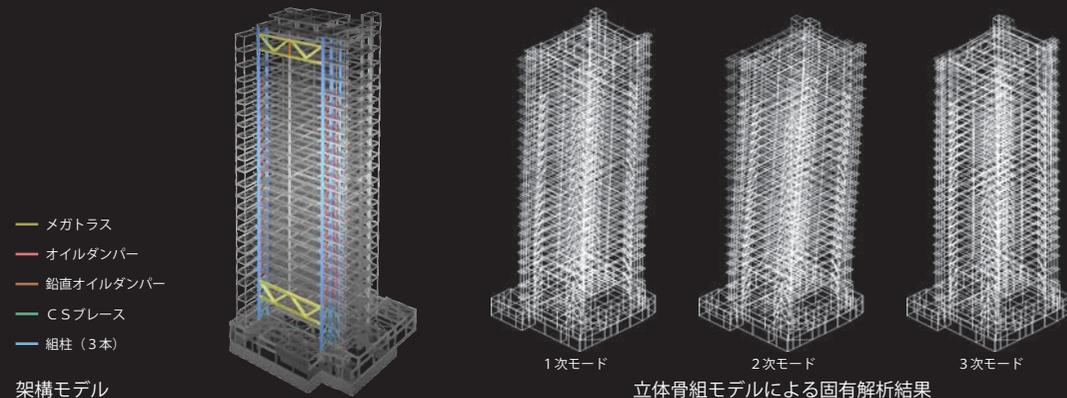
同じ広さのスペースが気積の変化や外部の天候の変化で異なった感覚が得られるのは、私たちの身体の中に、個々に異なり時間と共に変化するゆらぎが存在するからである。このゆらぎに呼応し、ワーカーひとりひとりが自分の心地よい場を見つける手がかりを与えるのは、均質性や規則性を優先して作られた空間ではなく、様々な空間の変化が感じ取れる場にあると考えた。

共用部はワークスペースの周囲に風車状に分散配置され、密室空間は一つもない。すべてが光や風といった外部と連動した場としている。低層部はギャラリーや保育所など地域社会のCOMMONスペースとして計画した。それら全てがシームレスにつながりを持ち、偶発的な出会いとコミュニケーションが触発される場となるよう計画した。

非対称オフィスを支える構造システム

ワークスペース四隅の組柱+メガトラスによるメインフレームと、分散する共用部のサブフレームにより、この非対称オフィスは支えられている。
開放感のあるワークスペースを提供するために採用した3本の柱とXY方向のオイルダンパーからなる組柱は、水平力の8割を負担する集約化された耐震要素であり、柱の本数を最小化することに成功している。
また、低層部の無柱空間を生み出すために最上階と3階部分にメガトラスを設けた。これらのメガトラスは鉛直荷重を上下半分ずつ受け持つのみならず、最上階トラスに組み込まれた鉛直方向のオイルダンパーにより、地震時における上下動の低減に効果を発揮する。

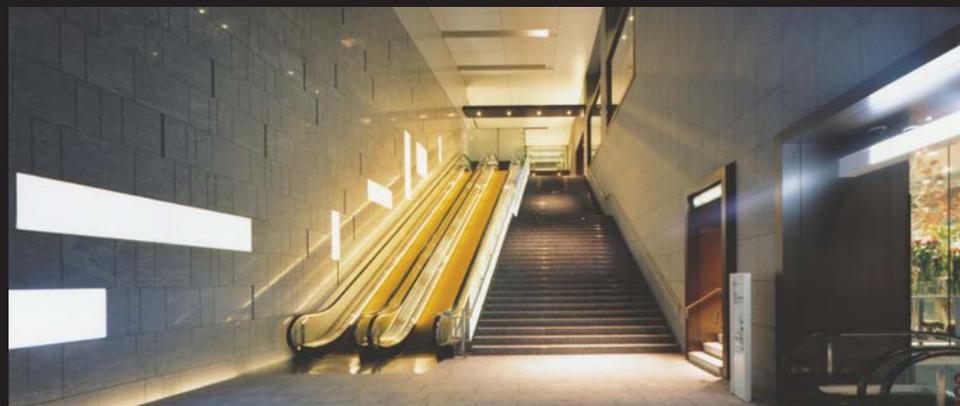
宮城 佑輔



風車がコミュニケーションを触発する
総合設計制度の壁面線と囲われた不整形なエリアの中央に整形なワークスペースを据え、壁面線との余剰部分に階段やエレベータなどの共用空間を風車状に分散配置したオフィスである。共用空間をワークスペースと同様、天候や風景の変動を感じ取ることができる場とすることでオフィス全体がシームレスで連続性のある環境となる。
オフィスには多人数のコラボレーションを想定した大きなテーブル、窓際には小さなミーティングスペース、オフィス中央にはコーヒータンに立ち話もできるカウンターキャビネットなどが分散している。この風車のようなオフィスが編集者を多方向へいざない、偶発的で自由闊達なコミュニケーションを触発する。

小山 裕之





青山通りに南面し、神宮外苑に隣接するオフィス・店舗・ショールームで構成された複合ビルである。

高層部は、整形無柱なオフィス空間としてのガラスボックスと、彫刻的な形状を持つコアにより青山に新たな風景を作ろうと試みた。低層部は敷地内を貫通する「道」に沿わせ店舗・ショールームを展開することで、青山通りの賑わいと街並を外苑方面の敷地最奥部へと連続させている。

接道長さが約 50mと限られた敷地であるため、オフィスの出発階は 2 階とし、「スカイロビー」として喧騒から離れたゆとりある空間となるよう計画、それにより接地レベルを開放することで、「道」と商業施設の設置を可能にした。

間口 47m、軒高 13mのフレームを敷地間口いっぱい構成することで青山通りとの一体感を高め、フレーム内に設けられたガレリアの吹抜け空間・2階のスカイロビー・ショールーム・商業施設のヴォリューム、街路樹・水景施設・サイン・ポラード、車・人を出演者とした劇場空間に見立てることで青山通りに対する演出としている。



AOYAMA GAKUIN
ELEMENTARY SCHOOL
青山学院初等部



守るべきもの：母校の記憶・土地の力
敷地はかつて緑豊かな武家屋敷で、校庭にある樹齢200年のクスノキの株立ちとケヤキの大木が土地の歴史と共に子どもたちを長年見守ってきた。運動会では、あえてクスノキの周りを子どもたちが駆け回る。築50年近い旧校舎と礼拝堂を建て替えるにあたり、「記憶」の集積体として、学校独自の学習空間を再構成した。

変えるべきもの：「陰」を転じて「陽」へ
不整形な敷地を最大限活用し、「裏」をつくらなかったようにした。土地の力を再発見し、クスノキとケヤキそして礼拝堂を中心に全ての内外空間が互いに連鎖し合い、子どもたちを包み込む環状空間をつくり出した。

育むべきもの：アクティブな学習空間の繋り
芝生のグラウンド、クスノキと礼拝堂を学校の中心に据え、さまざまな学習環境や子どもたちの居場所が有機的に繋がるように配置した。「同心円状と環状の繋がり」の中に子供たちが個々の居場所を見出し、活気ある学校の全体像が生まれる。



KOKA GAKUEN
JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
見華学園中学・高等学校



計画地は、東京都調布市の国分寺崖線緑地帯に面している。この自然豊かな環境の中に立地する女子の中学高校一貫教育校である見華学園はカトリックの精神を伝え、子どもたちの人格の完成を目指して設立された。

学校関係者と共に、理想的なキャンパスづくりによって社会的価値を持ち続ける「永く人々に愛され続ける建物」、そして資産的価値を持ちつづけるための「長持ちし健康でありつづける建物」をテーマとした長寿命建築を目指して計画を進めた。
全体構成については4年間に渡り施主と議論を重ね、着工してからは、屋根や外壁タイル貼りのモックアップによる確認、汚れないディテール等について一つ一つを確認しながら創りあげていった。

こうして年月と共に愛着の湧く教育環境づくりを目指し「100年建築」を実現した。

MYOJOIN TEMPLE

妙定院 伽藍整備

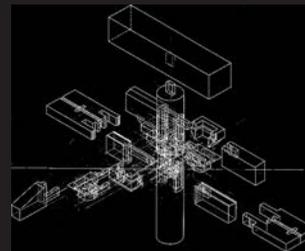


首都高速道路・都道・ビル・地下鉄等に挟まれた都心の中で、「悪環境を克服し、人々にやさしく、地域に開かれた寺院を目指す」という基本理念のもと、戦災や道路拡幅により変形した境内を、創建当時の伽藍を参考に再構築した。環境改善として騒音・振動・日照・防塵対策を行い、建物内外共に極力段差をなくし、本堂、書院は下足仕様で入り易くし、寺院としての安らぎを提供した。登録文化財の土蔵は一般公開しやすい場所に移築し多目的ホール「法然堂」とともに地域の新しい拠点として、各種集いや催しが出来るようにした。

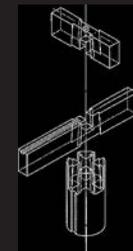
伝統木造である本堂は創建当時の雰囲気を継承しながら、端正な外観を表現している。建物の耐久性をより確保するために、良材の国産檜を選び抜き、柱・長押・貫などの軸部の接合部には金物を使用せず、改良した継手・仕口を採用している。構造は、独自に開発し実大実験による検証も行っている耐震板壁、古代長押などを組み合わせた「新・耐震化伝統木造架構」を採用し、耐震性の向上を図った。

ディスプレイデザイン賞2008入選

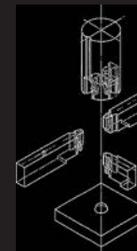
柿澤 英之



通し柱仕口



柱-頭貫仕口



柱-地覆-礎石仕口



13

vol.69

ANAHACHIMAN - Shrine

SYUTSUGENDEN

穴八幡宮 出現殿



当プロジェクトでは、伝統の技と現代技術の融合による、伝統美の再現を目指した。出現殿は伝統木造、総漆仕上としている。総漆仕上は、境内においても初めてであり、また最近では修理に用いられることはあっても、新築建物において使用されることはほとんど無い仕様である。木材の割れや下地処理についての配慮、漆の塗装厚さに伴う組立精度の検討など、数々の課題を克服し、伝統美の再現を図った。日本建築の美を特徴づける軒廻りのデザインについては、総反り・捻軒・反り出し勾配という日本の大工技術の最も高度な規矩術をCADにより再現して採用し、軽やかさと力強さという日本的に洗練されたしなやかな美しさを表現した。構造的には、耐震化架構体の追加実験（小壁要素）により得られた成果をも適用し、安全性の評価を行った。仕口（木組）は飛鳥時代から江戸末期までの先例を可能な限り調査し、最も秀逸と思われる室町中期の仕口に改良を加えて採用し、軸部には金物を一切使用しない伝統構法で組み上げ、耐震性の向上と長寿命化を図っている。

2008年度東京建築賞奨励賞受賞

福本 敦子



SHIBAURA ISLAND BLOOM TOWER

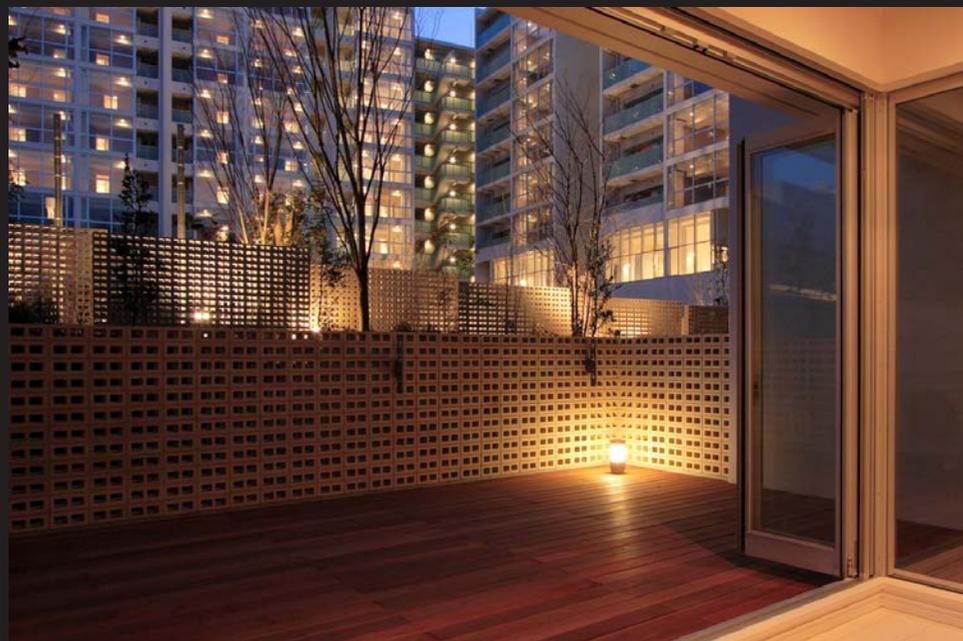
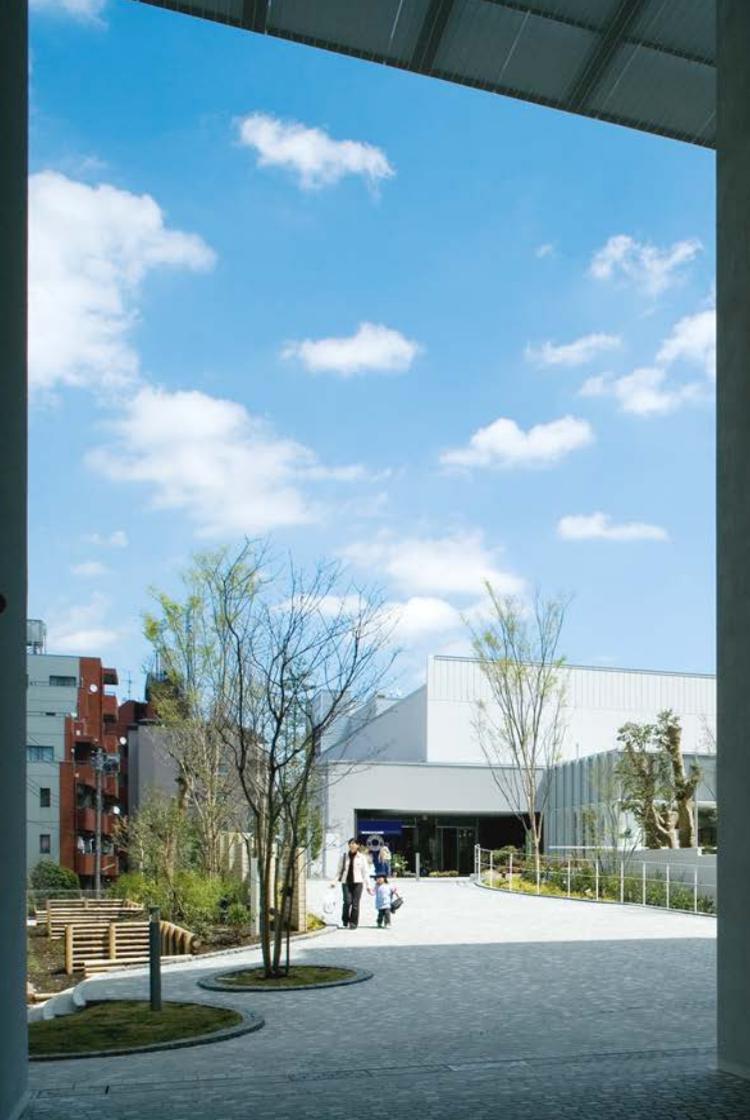
芝浦アイランドブルームタワー



少子高齢化が進む都心にGeneration Mixの実現テーマとして官・公・民が一体となって開発を進めてきた芝浦アイランドは、都心に生きる人々の様々なライフスタイルを受け入れ、多様な世代が交流しながら、次の世代へと住み継がれていくことを目指した、サステナブル（持続可能）な街である。東京都と港区による都市居住推進の先駆けとしての当該地区位置付け、公的機関によるマスタープラン策定及び道路・公園等の基盤整備、民間事業者による住宅及び施設建設という3ステップによって地域全体の発展を見据えた街づくりが実現した。

その街づくりの最終章となる芝浦アイランド〈ブルームタワー〉は、この島で2棟目となる賃貸住宅(住戸数964戸)であり、多様性・エンターテイメント性・ホスピタリティの追求をコンセプトの柱として計画を進めた。

建物の資産価値を持続させるために、タワーならではの心地良さと都心居住に求められるクオリティを追求するだけでなく、恒久的なスケルトンと可変性の高いインフィルという二つの部位の基本性能をそれぞれ高め、建物自体のサステナビリティも実現させた。



GARDENIER KINUTA

ガーデニエール砦



清水村(1946)

終戦翌年、引揚者・被災社員のために建てられた清水建設砦社宅。地元では親しみを込めて「清水村」と呼ばれていた跡地の有効活用として計画された、近郊住宅街での民間事業としては例のない270戸の大規模賃貸集合住宅である。

戦後の急激な環状八号線沿線の開発により、まとまった緑の少ない計画地一帯において、豊かな緑を眺められるよう中庭を取り囲むように3棟の住棟を配し、住棟と併設された商業施設に囲まれた緑豊かなオープンスペースを中心に、計画地全体を一つの街として形成することで、これからも地域の人々から愛され続けることを願った。

ファミリー向け、DINKS志向といった従来のマーケティング手法に捉われず、ファミリー・シニア住戸とワンルームが向き合うというプランニングや様々な住戸タイプの展開による幅広い世代が同居する仕組みをつくり、建物の老朽化と共に居住者も高齢化を迎えるという、現代の集合住宅の抱える社会問題に対する一つの提案とした。



AQUA HAKATA
アクア博多



博多の中でも天神界隈は様々な施設が混在し、常に活気に溢れるエリアである。業務・商業を中心とする天神、飲食店や歓楽街を中心とする中洲。2つの街が川を挟んで向かい合い、溶け合うことでこの街を魅力あるものとしている。本建物は天神から中洲へ向かう橋のほとりに位置する。施設は街並と同じように店舗・オフィス・ブライダルからなる複数の顔を有するビルであるが、ファサードはガラスで統一し混沌とした街並の中で清楚な存在感ある施設を目指しデザインのモチーフを目前に流れる那珂川の水の流れに求めている。

水の表情を透過／反射というガラスの特質を活用することで、透明なガラスの中に反射ガラスのパターンを加えたファサードは空・街の様相に反応し、水面にきらめく漣のように様々な表情へと変化する。また行灯をイメージしたピロティ柱、ガラスに浮かび上がるチャペル等とあわせて存在感を示し、この街の新しい都市景観の形成に寄与している。

2008年グッドデザイン賞
第21回福岡県美しいまちづくり建築賞 大賞
第2回建築九州賞 奨励作品



OUTDOOR MEETING ROOM



INDOOR MEETING ROOM



ISUZU FUJISAWA R&D CENTER

いすゞ自動車新事業開発工場 新事務棟



1916年創業のいすゞ自動車は国内の現存自動車メーカーの中では最古の歴史を誇っており、主力の藤沢工場でもモダニズムの流れを汲んだ美しい工場群が配置されている。

本計画では、敷地内に分散した開発部門を再結集し、業務の効率的な遂行とクリエイティブな研究開発環境の実現が望まれた。

ヒアリングを進めるうち、どの部門にも相当数のミーティングルームが必要になることが明らかになった。そこで執務空間が1フロア80m×45mというメガフロアの窓際にミーティングルームを配置する計画とした。どの席からもアクセスの容易な位置にミーティングルームを置くことにより、会議のみならず、個人のコンセントレーションスペースとしてフレキシブルに利用可能である。また、未利用時に事務室からの空気を経由させ排気することにより、このミーティングルームは簡易的なダブルスキン構造の役目を果たしている。

カーテンウォールに穿たれた穴は、窓際に配置された空調機への給排気を行い、さらにはインナーのミーティングルームと同様に使用されることを想定したアウトドアのミーティングスペースでもあり、構内の緑を享受する新しいワークスタイルの提案を行った。



KDX TOYOSU GRAND-SQUARE

KDX豊洲グランドスクエア



大スパンのオフィス空間が社会のニーズとして求められる昨今の流れの中で、本案件でも同様に大規模オフィス空間が求められた。

大規模オフィスはその性格ゆえに外部環境とのつながりが希薄になりがちだが、本案件では中央に21m×15mのアトリウムを設けることで、自然光をふんだんに取り込み、照明はアトリウムの輪郭を浮かび上がらせる配置を行うことで、光溜まりのような空間づくりを目指した。結果として爽やかな自然光を求めて人々が集まり、その賑わいが各階からあふれ出ることによって一体感のある空間を演出している。

昼間は自然光のみでも明るいアトリウムを実現すべく、光ダクトの理論によって、天窗の光が反射しながらも底部まで降り注ぐ環境とした。吹抜の袖壁をグロスのあるアルミアルマイト材で囲むことで光の反射板と見立て、更に織目調の孔空きパネルとすることで吸音効果を高めている。広いオフィス空間の中に光のコアを設けることで自然とのつながりを感じることでできる執務空間を提案した。



SANSUIEN
三翠園



三翠園は、重要文化財旧山内家下屋敷長屋を有する土佐藩十五代藩主山内容堂公別邸であった敷地に建つ開業60年を超える高知有数のホテルである。

改修設計にあたり、ホテル名である「三翠園」の名の由来である三つの翠（庭園の翠・借景たる筆山の翠・鏡川の翠）と山内家の「お屋敷の復活」を価値再生のテーマとした。

お城の石垣をモチーフとした粗い石張りのエントランスと、フローリングと垂木をモチーフにした梁型によりお屋敷の縁側をイメージするロビーを設けた。

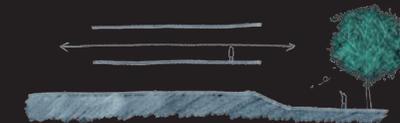
ロビーからは、日本伝統の円窓をイメージした特許申請中のマンサード型耐震フレームを設けた半円形の窓より日本庭園が一望できる。窓際に設けた外部水盤からの反射光が天井面に揺らぎを与え、フローリングに反射する姿により、庭園に向けた円窓が完成する。

また各所にお屋敷及び高知を想起する素材・イメージを配し、お客様をお迎えする空間としての設えと安心の両立を実現することができた。

リノベーション建築再生展・第8回設計アイデアコンテスト入賞 大村 昌聡

ASADA TEKKO Tokyo branch

浅田鉄工東京支店



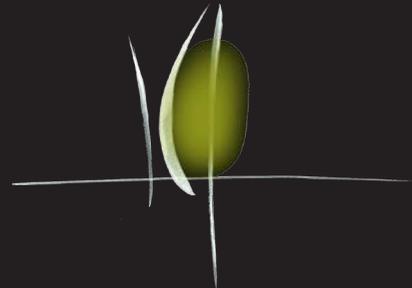
海辺の街に建つオフィスである。敷地は東京湾へと真っ直ぐ伸びる緑豊かな臨港プロムナードに面しており、周辺は低密の建物が立ち並ぶ。このようなおらかな周辺環境とひと続きとなるコンパクトなオフィスをつくらうと考えた。

厚さ300mmの2枚のフラットスラブを突き出しそれをφ350mmのコンクリート細柱で支え、間を事務室とした。一方300mm厚のコアウォールに囲まれた場所を機械のデモルームとし、空間を合理的に構成した。耐震壁に地震力を負担させることで細柱+フラットスラブで梁の無い開放的な空間とし、コンクリート造でありながら軽やかな外観とした。

コンクリートと鉄とガラス。視線の先に広がる樹木の枝葉の成り立ちと同じように、必要最小限の部材で構成した。

自然の中に佇むには、素材は無垢な方がよい。飾り気のない密実な躯体の中に、季節の移ろいや陽の光・樹木の影など自然を感じられるオフィスをつくれたと思う。

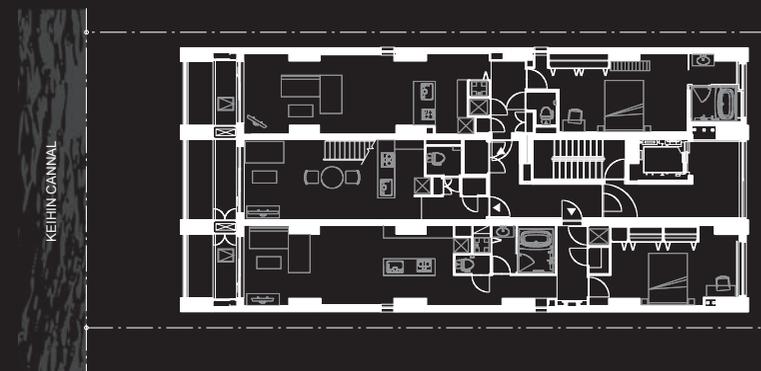
SIA MACHIDA
S | A 町田



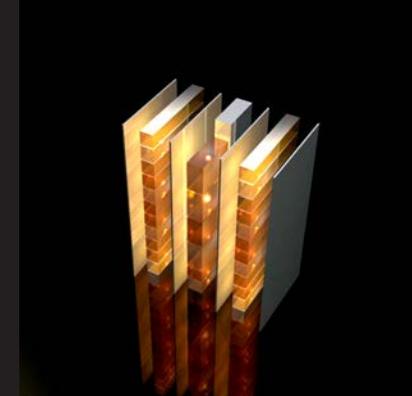
町田駅前の雑居ビルが立ち並ぶ商業密集地に計画した地上6階建のテナントビルである。狭い間口の敷地に対して、いかに埋没させず商業施設としてのランドマーク性を表現できるかが設計のポイントであった。そこで象徴的な要素として3次曲面のクレセントエッジをファサードに展開した。

「3次曲面のクレセントエッジ」は光と影のコントラストによってかたちが生み出される象徴的なエッジとして演出できると共に、天空率を利用するに当たって有効に利用できる形態でもあった。

設計段階で3次曲面のつくり方を試行錯誤し、管楽器からの発想で丸パイプでの構成を思いついた。曲げ易かつ色々な角度でも垂直に支持できる丸パイプを下地に採用し、3次曲面を実現させるよう設計図に展開した。また、建物を印象付けるこの曲面をいかに創り込むかが重要である為、現場において、モックアップ・鉄骨建方等によって、曲面の曲率やディテールを確認し、美しい曲面を実現させた。また外装にモアレを表現したグラフィックパターンと照明計画を施す事によって、より一層象徴的な建物となり、雑多な商業の街並みを活性化させた。



TENNOZ TERRACE
天王洲テラス



東京港品川埠頭の倉庫街の隙間に建つ賃貸集合住宅である。敷地の最大の魅力は東西に広がるダイナミックな都心の風景である。全ての住戸がその環境を最大限享受できるように東西に全面開口のある細長いトンネル形状の住戸を提案した。梁型や下がり天井が出ない扁平柱・扁平梁による4枚のコンクリート壁によって切り取られた都心の風景は、リアルな環境から切り離され、各住戸の中に映画のワンシーンの様な最高のエンターテインメントとして取り込まれる。また、1フロアー3住戸の基本構成の中で、トンネル形状の住戸の他に2層吹き抜けのあるメゾネット住戸、木製デッキ敷きの屋上に専用階段でアプローチ可能な屋上テラス付き住戸といった特色ある住戸を組み合わせている。広々とした気持ちよさと一人になりたい時の距離感をリニアな長い空間や吹き抜け空間によって同時に実現することができ、DINKS用住宅の一つの回答となった。



タワーを上げる建設技術

展望部の躯体・仕上げ材・設備機器等を含めたリフトアップ総重量は約1200トンに上る。揚重には10台の400トンジャッキと150本の15.2φPCストランドが使用され、メインとなるリフトアップは23時間をかけて行われた。工事にあたっては施工時構造解析を実施し、揚重時の展望架構部材への影響や、変形抑制するための仮設部材の設計がなされ、安全かつ精度の高い施工に重要な役割を果たしている。



リフトアップ開始



37m上昇



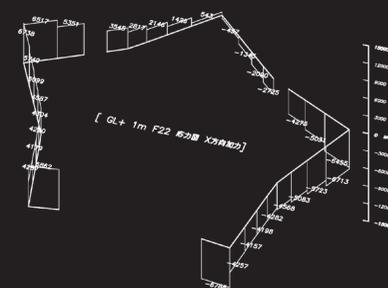
63m上昇



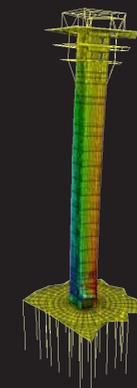
リフトアップ完了

タワーを支える構造解析技術

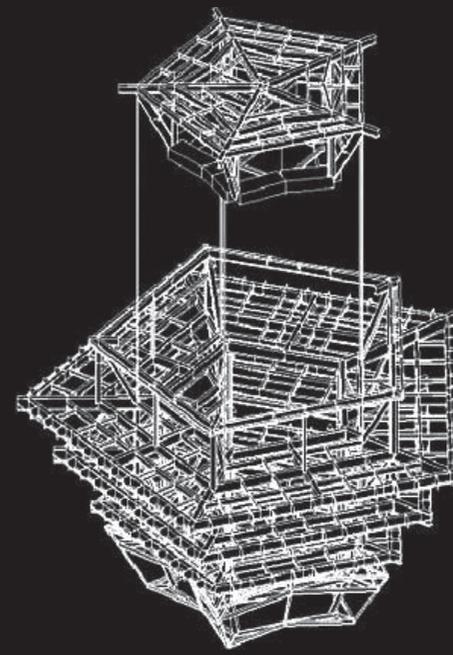
鉄筋コンクリートによるタワー建設は形状に対する自由度が高いのみならず、海岸近くに位置する計画地では塩分による腐食に対する耐久性という点からも有利である。通常の解析ツールを使用することができない特殊な形状であるため、原子力建屋等で用いられる手法を応用して筒体部断面のファイバーモデルを作成、 $M-\phi$ 関係を求めて質点バネモデルに適用した。予備応答解析により計算された設計用地震力をFEM塔体モデルに与え、断面算定用の応力を算出した。この工程を繰り返すことで仮定断面と算定断面とを収斂させ、最適な鉄筋配置を決定した。



五稜星型のタワーに発生する応力



地震時の変形図



施工時解析モデル

GORYOKAKU TOWER

五稜郭タワー



函館五稜郭公園の入口近くに最初のタワーが建設されたのは1964年（昭和39年）である。航空制限により高さが60mに止められ、公園全体を俯瞰するには不十分であったが、その後の規制緩和を受け、函館山展望台と五稜郭中心にあった奉行人物見櫓を結ぶ軸線状に新展望タワーを建設することが決定した。

五稜郭公園に隣接する立地性を五稜星型塔体・五角形展望台として表現し、五角形の底辺正面を五稜郭に、正対する頂点を函館山に向け配置している。

航空制限高さ最大に計画された新タワーは、タワー上部の空間を施工上利用できないという制約を当初から抱えていた。このため、断面を五稜星型とする高さ98mのRC造筒体を先行施工し、筒体足元で構築される展望室鉄骨架構を引っ張り上げる施工法(スリップフォーム+リフトアップ工法)の採用を決定し、設計施工一体となった取組みを展開した。



計画・設計技術

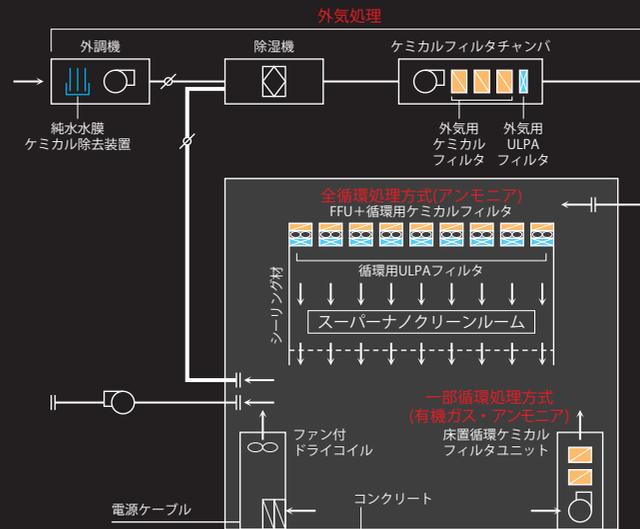
スーパーナノクリーンルーム・システム構成技術
分子状汚染物質濃度は、汚染物質の外部からの持込み、内部発生、除去装置の性能に影響を受ける。本システムでは、除去効率を考慮して、湿式方式と乾式方式による外気処理システムと一部循環方式と全循環方式による内部循環処理システムを組合せたシステムとした。

外気処理方式

[外調機水膜による湿式方式 +
ケミカルフィルタによる乾式方式]

内部循環処理

[一部循環処理方式 + 全循環処理方式]



対象分子状汚染物質 目標気中濃度と達成濃度

対象物質	目標気中濃度 1 μgC/m ³ 以下	達成濃度 0.10 μgC/m ³		
有機ガス	F-	1ng/m ³ 以下	<0.04ng/m ³	
	Cl-	1ng/m ³ 以下	<0.36ng/m ³	
	アニオン	NO ₂ ⁻	1ng/m ³ 以下	<0.14ng/m ³
		NO ₃ ⁻	1ng/m ³ 以下	<0.08ng/m ³
		SO ₄ ²⁻	1ng/m ³ 以下	0.09ng/m ³
カチオン	NH ₄ ⁺	1ng/m ³ 以下	0.65ng/m ³	
	B	1ng/m ³ 以下	0.01ng/m ³	
ドーパント類	P	1ng/m ³ 以下	0.73ng/m ³	
	ドーパント	3ng-B/m ³ 以下	0.32ng-B/m ³	
金属類	Na ⁺	1ng/m ³ 以下	<0.04ng/m ³	
	K ⁺	1ng/m ³ 以下	<0.04ng/m ³	
	Fe ³⁺	1ng/m ³ 以下	<0.04ng/m ³	
	Cu ²⁺	0.2ng/m ³ 以下	<0.04ng/m ³	

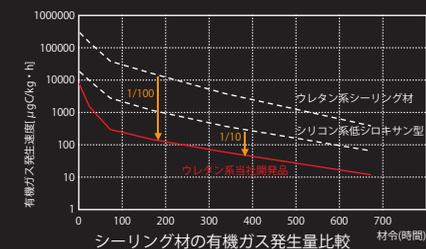


材料・機器の開発

開発項目一覧

本開発技術は、当社が1990年代から開発を行ってきた低アウトガス部材と今回開発した低アウトガス機器により構成されている。

項目	特徴
ULPAフィルタ	アンモニア発生量1/100以下のパッキン・接着剤使用 有機ガス発生量1/100以下
塗り床材	有機ガス発生量1/10以下 アンモニア発生量が1/2以下
シーリング材	有機ガス発生量が1/10以下 シリコンウエハに吸着する有機ガス発生量が1/2以下
ケーブル	有機ガス発生量が1/10以下 シリコンウエハに吸着する有機ガス発生量が1/2以下
コンクリート	アンモニア発生量が1/10以下
外調機 除湿機	パッキン使用の極少化/低アウトガスパッキン使用 焼付け塗装条件の最適化/清掃・洗浄仕様の確定
ケミカルフィルタ ユニット	低アウトガスパッキン使用 焼付け塗装条件の最適化/清掃・洗浄仕様の確定
活性炭ケミカル フィルタ	高賦活、薬品添着による除去率のアップ コーティングによる発塵量の削減
ケミカルフィルタ チャンバ	構成部材の確定

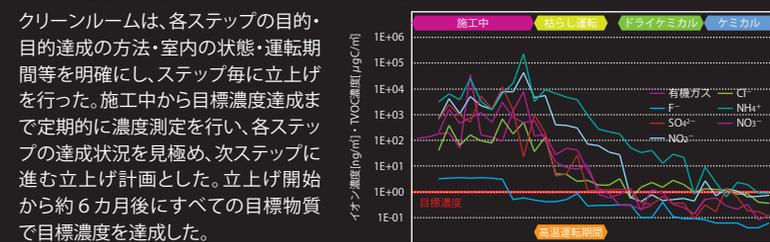


データベースの構築

ケーブル(電源・制御)、パッキン、接着剤、焼付パネル、グレーチングパネル、LED照明、耐水パテなど42点・数百ポイントに及ぶアウトガスを測定し、データベースを構築した。

検証技術

立上げ期間中の有機ガス・イオン類濃度の経時変化実測値



実測値とモデルによる予測値の比較 (アンモニア)

開発したシミュレーションによる計算値と実測値を比較した結果、減衰時の濃度変化および最終到達濃度ともによく一致していることが確認でき、シミュレーションの妥当性が検証できた。



分析検証技術

分析機器の検出下限に近い測定となるため、サンプリング時間を短縮し精度の高い測定ができるサンプリング方法を開発した。

有機ガス

Tenax-GR管とサンプリング時間短縮・汚染防止に優れたSi捕集管で捕集GC(ガスクロマトグラフ)およびGC-MS(ガスクロマトグラフ質量分析計)を用いた同時分析。



イオン類・ドーパント・金属類

分析精度が優れた2本ノズル型インピンジャー法を開発し捕集・分析。



SHIMIZU INSTITUTE OF TECHNOLOGY ULTRA-CLEAN ROOM LABORATORY

清水建設株式会社 技術研究所 新クリーンルーム実験棟



生産技術の高度化に伴い、信頼性の高いクリーン環境の実現は、生産プロセスの要となっている。本施設は、顧客企業と密接な連携の元、最適なクリーン環境を迅速かつ確実に実現するための実験・検証施設として計画された。この実験棟は、スーパーナノクリーンルーム・モックアップクリーンルーム・バイオロジカルクリーンルームの3種類のクリーンルームを備えている。
スーパーナノクリーンルームは、清浄度・湿度・分子状汚染物質濃度を同時に極低濃度に制御できるクリーンルーム技術を開発し、世界で初めて、清浄度は「1m³の空気中に粒径0.1 μm以上の微粒子が1個以下」、露点温度は「1m³の空気中に1ng以下」を実現している。

第47回空気調和・衛生工学会賞技術賞
(技術開発部門)

長谷部 弥

DNA MATERIAL WALL

女子美術大学 杉並キャンパス 食堂改修



美術大学のキャンパス再整備計画に伴い、既存校舎の一角を食堂に改修した。耐震壁や柱梁、天井をスケルトン現しで純白の空間にリセットし、学生とのコラボレーションを楽しめる仕掛け創りを提案した。学ぶ・育む・表現する、といった教育プロセスそのものを空間の一部として取り込んで見える化を試みた。「教育プログラムを形に」を実現したプロジェクトとなった。

瀧根 正温

真白いキャンパスに見立てた大きな壁に一人一人の「私の色」＝「DNA」を繋いでいく。たくさんの個性が集まる学校。その一つ一つは異なる個性だが、それらが塊になるとき一つの大きなムーブメントが生まれる。アタッチメントを単純にして、「DNA」を容易に取換え可能とし、生々流転のなかで常に新たなメッセージが描かれ伝えられていくことを願った。

SDA賞2008入選

井筒 英理子



34

vol.69



35

vol.69

MINATO CITY ECO-PLAZA

港区立エコプラザ



港区が提供する特定公共賃貸住宅の低層階に位置するエコプラザは、あきる野市の「みさと区民の森」から切り出した杉の間伐材をふんだんに使った、木の香りが漂う大きな木箱のような環境学習施設である。

展示・収納・本棚・テーブルを含めた内装のほとんどに無垢の間伐材を使うだけでなく、廃校になった小学校の木の椅子の再利用など、運営者を中心として様々な志ある人たちの手で、常に環境を考えた変化と成長を遂げている。

事業者・監修者・建築家・インテリアデザイナー・管理者・施工者・あきる野の森・利用者のすべての人々が共にかかわり合いながら、エコという目標に向かっていくことで、賑わいと笑顔の絶えない施設を創りあげられたプロジェクトであった。

JCDデザインアワード2009入選
ディスプレイデザイン賞2009入選
SDA賞2009入選

大久保 敏之

ST.LUKE'S BIRTH CLINIC

聖路加産科クリニック



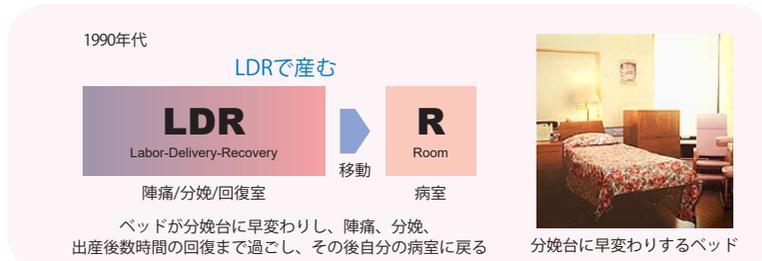
新しい都心型の産科クリニックモデルである。都心一等地に、身近で家庭的な助産院の長所をどうインストールするかが課題であった。自室での出産プログラムに小さなユニット構成を組み合わせることで、安心感と親密感が生まれる環境を計画した。

戦後、病院での分娩を志向するGHQの改革で、1950年代には95%を占めていた家庭でのお産は急速に施設に移行し、1970年代にはほとんどが施設出産となった。以後長らく分娩室での出産が主流だったが、1990年代にはニーズの多様化が進み、聖路加国際病院を始めとする先進的な病院で、妊婦の負担軽減と快適性を重視したLDRシステム(Labor-Delivery-Recovery：陣痛分娩回復室)が導入された。

今回の計画では「最もリラックスできるところで産める」環境の実現を目指した。全室を退院まで過ごせるLDRとし、分娩ベッドの代わりに自分が楽な格好で産めるよう分娩を助ける仕掛けを各部屋に備えた。家族が同じ部屋で過ごす事で、子育ての第一歩に積極的に関わることも想定している。2010年5月に竣工するこのクリニックがモデルとなって、深刻な出産事情を抱える日本に、また産みたいと思える空間がひとつでも増えることを期待している。

森 佐絵

最もリラックスできる場所で産むプログラム



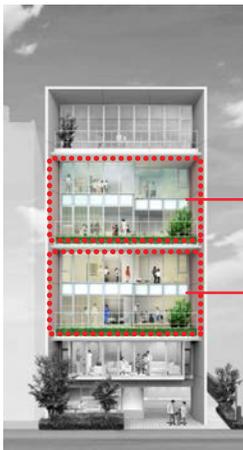
36

vol.69

小さな助産院が2つあるイメージ

産科クリニックとしては初めて19床を2つのユニットで個別に運営する計画となっている。ここでは、医師ではなく、生活を支える助産師を中心に据えたサービスが提供される。これを受け、狭小敷地の縦長な形態を活かし吹き抜けを抱いた小さなユニットを2つ構成した。各ユニットの居室には和室と洋室のバリエーションを持たせ、畳のリビングを配置するなど家庭的で心休まる雰囲気 연출した。

小規模な単位での運営は、スタッフの目が行き届きやすく手厚いケアが可能となる上、患者・家族・助産師が密につながりやすい雰囲気を生み出す狙いがある。そこでの絆は、核家族化が進んだ都心において、多くの場合は働きながらの出産と育児に不安を抱えている妊婦にとって強い味方になるはずである。



10床のユニット

9床のユニット

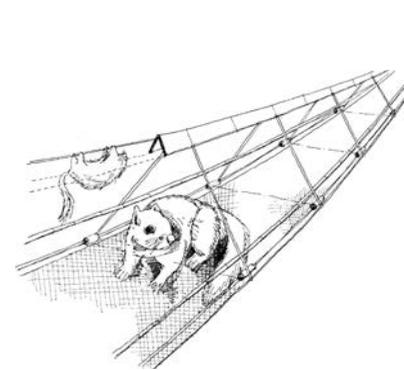


37

vol.69

ANIMAL PATHWAY

アニマルパスウェイ 樹上性小動物の通り道



「アニマルパスウェイ」は、清水建設が参画するアニマルパスウェイ研究会による造語で、「道路などに人工的につくった樹上性小動物の通り道」を意味する。道路によって分断された森に棲む小動物の通り道を復元し、動物たちが安全に移動するためのもので、同研究会の働きかけに賛同した山梨県北杜市が発注者となって実現した。かつて清水建設は、山梨県大月市に二ホンリス用の吊り橋を架設したことがあるが、複数の動物種が利用できるよう設計された吊り橋は、これが国内唯一の事例となる。パスウェイの形状は、開けた空間を嫌うヤマネや閉鎖空間を嫌うリスなどが、いずれも通れるよう検討を重ね、実証実験の上決定した。設置後のモニタリングの結果、アニマルパスウェイは、ヤマネをはじめ二ホンリスやヒメネズミなどにより頻繁に利用されている様子が確認されている。

2007年度土木学会環境賞受賞

小松 裕幸



WAKO BUILDING

和光本館



「短工期であっても決して妥協はしない」
はじめに云われた言葉である。

それは、建築の文化的・歴史的価値の次代への継承と現代の建築に比しても卓越した実用性を備えることであり、昭和7年の建築の延命化を図る、現行法規に準拠するという消極的かつ受身の姿勢ではなくまた創建時の有様を博物館的に復元・保存するのではなく、創建時がそうであった様に、今後の永きに亘る建物の価値を見据え、新旧を超えた再構築を行うことであった。300日の限られた工期のなか、建物を骨格の状態に戻し、建立の哲学と渡邊仁の意匠そして建物に潜在している力を理解し、現代の創造性と技術を惜しみなく投入した。事業者、清水建設を中心とする協力メーカー、業者を含めた全ての協働者が、「和光」であること、「銀座」にあることを常に意識し、妥協することのない現代の仕事を徹底的に追求した。創建時から70年以上経た現在においても優れた実用建築であることは、絶えることのない入念なメンテナンスと創建時の建築の潜在能力の高さにあり、先人の思い、創建時の姿、過去の改修をなぞりながらの道程であった。

UNDER CONSTRUCTION PROJECT

建設中プロジェクト



SHIMIZU NEW HEAD OFFICE PROJECT

新本社プロジェクト

2011年竣工予定
東京都中央区
延床面積：約51,800㎡
地上22階・地下3階



2009年9月現在



FUKOKU LIFE OSAKA PROJECT

大阪富国生命ビル

2010年竣工予定
大阪府大阪市北区
延床面積：約62,400㎡
地上28階・地下4階
デザイナー・アーキテクト：
DPA DOMINIQUE PERRAULT
ARCHITECTURE



2009年7月現在



FX PROJECT

(仮称)富士ゼロックス統合 R & D センター

2010年竣工予定
神奈川県横浜市西区
延床面積：約135,300㎡
地上20階・地下1階
外装デザインコンサル：
光井純 & アソシエーツ建築設計事務所



2009年10月現在

Build Live Tokyo 2009 II

Build Live Tokyo 2009 II

2009年9月9日～11日、IAI日本主催によるWEB上で競うバーチャルコンペティション Build Live Tokyo 2009 II に参加。

48時間という限られた時間の中で3D・CADデータを設計から施工まで様々に駆使した。10月9日「Archi Future 2009」での最終プレゼンテーションにて、当社のBIM技術とプロセスが評価され、見事グランプリ「ベストプロジェクト賞」他2賞を受賞した。

この為に集まった各分野のメンバー達（設計担当：意匠・構造・設備、3D生産設計担当、生産技術・設備担当、現場施工担当）が、プロフェッショナルとしてどれ程の成果を残すことができるか、業界の最先端を行く『ものづくり集団』として自らに挑戦した48時間であった。



出典 IAI日本



stream DEW Session

stream DEW Session

2009年8月5日。

会場には約150人の設計・プロポーザル関係者が集まった。

stream DEW 委員会メンバーが日常業務の傍ら進めているプログラムについて紹介、参加者と活発な意見交換を行った。



現場での「ものづくり」に奮闘する「人」を追うDEW Document や、ツリーハウス・うみのいえをつくるワークショップ、双方向コミュニケーションツールとしてのIT・ブログ活用の挑戦など、映像を通してビジュアルに表現した。各支店とはTV会議システムを活用、オンライン接続により距離を感じさせないSessionとなった。



Document

ドキュメント

設計者がどの様な想いのもと、奮闘を繰り返した「ものづくり」を行ったか竣工後の現場に出掛けて「人」を中心に取材。作品の質の高さだけでなく、担当者の「ものづくり」にふれ、自らの「ものづくり」を再考する。取材ソースはドキュメンタリー映像に仕立て、参加者に紹介した。

Vol.1：長崎ガーデンテラス
Vol.2：新潟日報長岡支社

Workshop

ツリーハウスとうみのいえ

フィールドに出て「ものづくり」に汗しながら、環境とライフスタイルについて考える。【ツリーハウス】『樹』に宿る建築「ツリーハウス」をセルビルド。山中湖村の『4本の樹』をパートナーに2回のワークショップを実施した。【うみのいえ】環境を意識した「うみのいえ」をデザインすることで、シミスの取組み等を社会に発信する。

Communication

アサカツとBlog & Wiki

【アサカツ】始業前の時間をデザイン論から子育て論まで幅広く議論している。【Blog & Wiki】ITを有用なコミュニケーションツールとして活用できるよう、Blog & Wiki を DEW メンバー間の情報共有の道具として、実験的試行を繰り返して、リアルなコミュニケーションとシームレスな環境を自主的に構築することでその実用性を高めるべく検証を行っている。

STUDY & INSPECTION ABROAD

海外留学・海外視察について



当社では、海外留学制度を取り入れて、豊富な知識と高い専門性を身につけた人材の育成に取り組んでいる。

大切にしているのは「自己の気づき」。日頃から業務に対する問題意識をもち、それを解決するためには何を学べばいいのか、また学んだことをどう業務に生かせるのかといった、自分なりの考えをしっかりと持っている人を留学対象者としている。

2000年以降では、設計・プロポーザル統括から世界各国の企業へ7件の留学を実施した。意匠・構造・設備など、さまざまな系統から候補者を選抜。今後の事業展開を踏まえた留学テーマに基づき、本人自らが受入先を選定し、留学委員会の承諾を得て決定する。世界トップクラスの実務家と、実際のプロジェクトを通じたさまざまな取り組みにより、最先端かつトップレベルの計画力、デザイン力、技術力の習得を目指してきた。その結果、日本では得られない、貴重な体験と想定した以上の収穫を得て帰国をしている。

帰国後は、留学先で得た経験、情報や技術を社内フィードバックし、専門性の高いものづくり、ひとつづくりに生かしている。

設計・プロポーザル統括 企画管理部長
道江 紳一

STUDY ABROAD

海外留学

2008-2009 ARUP : Cardiff, United Kingdom

海外・国内大型案件受注に向けた環境配慮型エンジニアリング力の強化

英国と日本とで国や文化が異なっても、高い目標に向かって目指すものは同じである事を強く感じた。

この留学で色々な視点から物事を見られるようになったことを、今後の業務にも、自分自身の人生にも活かしていきたい。

金坂 真哉



2009 DOMINIQUE PERRAULT ARCHITECTURE : Paris, France

アトリエ事務所におけるデザインプロセスの習得

パリで最も印象的だったのは、みんな心から生活や芸術を楽しんでいるという事。事務所で働く設計者達は、厳しい実力主義の中でも、デザインする事の楽しさを忘れていない様子に見えた。言語ではなくデザインで判断する職場で仕事できた事は、今後の設計活動の糧になるだろう。

重松 英幸



2007-2008 Thornton Tomasetti : New York, United States

構造設計における米国基準と設計技術の習得

情報化技術を活用した次世代型統合建設生産プロセスや建築環境性能に関する急速な関心の高まり等、米国建設業界における現在進行形の大きな変革を目の当たりにした。一般にイメージされる米国企業とは違い、人材育成や社員相互の意思疎通に対して多大なエネルギーを注いでいた。

小倉 裕之



2007-2008 KPF : New York, United States

トップレベルの計画力・デザイン力の習得

限られた時間がそう感じさせたのか、いつもの数倍の密度で刺激を受け続けたように思う。3Dモデリングと生み出される鮮しい数のフィジカルモデル。美しいかたちに対する徹底的なこだわりを痛感する日々であった。

佐藤 剛也



2006-2007 SOM : New York, United States

海外トップ事務所のインテリアデザインスキルの修得

清水の仕事を通して設計の先輩や現場で学んだ方法は世界でも通用した。

留学中も質の高いプロジェクトに携わり、現在はその経験も活かしながらチームワークで、よいデザインの実現に取り組んでいる。

小林 央和



2005-2006 Lockwood Greene : Michigan, United States

米国食品医薬品局対応のエンジニアリング手法の習得

一年間のアメリカ企業留学を経て、多くのことを学び、多くの仕事仲間・友人を作ることが出来たが、一番の収穫は、「言語や文化は違えど図面や絵は世界共通である」ということを身をもって認識できたことである。

手島 徹



2004-2005 ARUP : London, United Kingdom

海外基準(BS)・国際的設計手法の習得

Responsibleという言葉に日本語でいう「責任」という意味以上の重さを実感。契約社会といわれる欧米的な仕事の仕方・物の考え方をその最前線で体験できたことは帰国後の自分の仕事・生き方にも有形無形に影響を与えている。

島崎 大



2006-2008 INSPECTION ABROAD

2006-2008年度本人企画型海外研修

海外研修テーマ

梶谷 正和 エコロジーを「使う」「楽しむ」ローテクな環境技術

稲毛 誠 THE JERDE PARTNERSHIPから

これからの商業施設開発を学ぶ

佐野 祐子 地球環境との共生のあり方を求めて

清成 心 構造設計者から見た「ファザードエンジニアリングの探求」

横井 義彦 ヨーロッパ(イギリス・ドイツ・スイス)の

現代建築を考える

重村 卓 米国における建築設備技術の動向視察

金坂 真哉 9TH REHVA World Congress CLIMA 2007の技術

視察を主とした最新海外建築・設備情報の取得と展開

吉田 進一 高齢者の住まいに関する海外事例視察

大橋 一智 企業姿勢の実現としての建築作品の視察

若杉 典央 中心市街地の商業施設に関する視察

日野 陽子 欧州の著名なコンサートホール視察

山田 航司 スイス バウビオロジー建築を見る

国立 篤志 オスカー・ニーマイヤー

宮崎 俊亮 欧州の再開発にみるコーポレート・アキテクチャーの視察

加藤 万貴 建築がつくるランドスケープ

柄本 純夫 アメリカの大学建築の新しい動きについて

鈴木 浩則 中国の超々高層タワーの構造形式と

香港ARUPの設計手法

加藤 均 1930年代イタリア合理主義建築の再評価及び

イタリアにおけるコンバージョン事例の視察

熊谷 澄雄 ワークスタイルを変革する北欧諸国のオフィス視察

黒田 健一 CLASSIC meets MODERN

田村 隆 都市型高密度集合住宅の開発事例視察

(オランダ・ドイツ)

中野 信哉 米国病院施設の「施設運用管理業務を通して」の視察

Design Works of the Year 2008

Design Works of the Year 2008

2008年度は、10月下旬から11月中旬までの期間で募集を行った。初めての開催にも関わらず全国から98作品の応募があった。

一次審査では社内の設計関連部署専用開設したWEB投票システムにより630名が投票を行い、上位11作品が選出された。

二次公開審査は12月12日に本社シーパンスの社員食堂にて開催され、300名を超える設計・プロポーザル統括関係者の参加者による熱気に包まれた。

Highest Award

女子美術大学 DNAマテリアルウォール



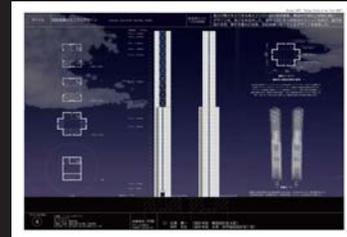
Second Prize

「デザインコラボ」と「メリハリ」で空間の密度を高める
芝浦アイランド・ブルームタワーの場合-



Third Prize

超超高層のミニマルデザイン



企画管理部

吉田 郁夫



学研本社ビル
 建築主：株式会社学習研究社
 主要用途：事務所・保育所
 敷地面積：2,964.06㎡
 建築面積：1,079.70㎡
 延床面積：27,893.85㎡
 構造：鉄骨造(柱CFT造)、一部鉄骨鉄筋コンクリート造
 規模：地下3階・地上24階・塔屋2階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都品川区西五反田2-11-8



青山OM-SQUARE^{*3}
 建築主：有限会社コーラス・プロパティ
 主要用途：事務所・商業施設
 敷地面積：6,392.21㎡
 建築面積：3,443.76㎡
 延床面積：47,135.25㎡
 構造：地上鉄骨造(柱CFT造)
 地下鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄筋コンクリート造
 規模：地下3階・地上25階・塔屋2階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都港区北青山2-5-8



青山学院初等部^{*2}
 建築主：学校法人青山学院
 主要用途：小学校
 敷地面積：10,484.44㎡
 建築面積：5,573.48㎡
 延床面積：14,965.94㎡
 構造：鉄筋コンクリート造
 規模：地上4階・地下2階
 竣工年：2007年
 所在地：東京都渋谷区4-4-25



晃華学園中学・高等学校^{*2}
 建築主：学校法人晃華学園
 主要用途：女子中学・高校
 敷地面積：33,291.63㎡
 建築面積：6,179.55㎡
 延床面積：16,689.80㎡
 構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
 規模：地上4階・地下1階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都調布市佐須町5-28-1



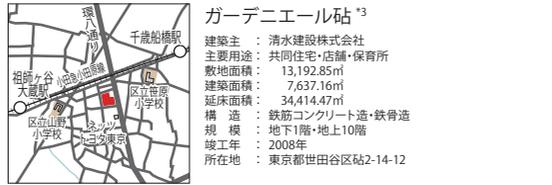
妙定院 伽藍整備^{*2}
 建築主：宗教法人妙定院
 主要用途：寺院
 敷地面積：2,522.31㎡
 建築面積：1,004.07㎡
 延床面積：1,493.31㎡
 構造：本堂・土蔵・山門・木造
 書院庫裡：鉄筋コンクリート造
 規模：本堂・土蔵・山門・地上1階
 書院庫裡：地上2階
 竣工年：2007年
 所在地：東京都港区芝公園4-9-8



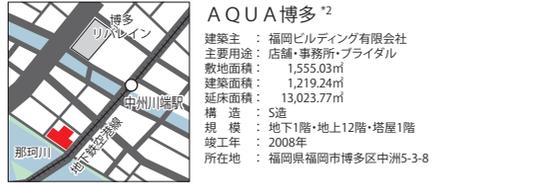
六八幡宮 出現殿^{*2}
 建築主：宗教法人六八幡宮
 主要用途：神社
 敷地面積：10,836.12㎡
 建築面積：58.88㎡
 延床面積：29.05㎡
 構造：木造
 規模：地上1階
 竣工年：2006年
 所在地：東京都新宿区西早稲田2-1-11



芝浦アイランドブルームタワー
 建築主：三井不動産株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社ケンコーレション、株式会社新日鉄都市開発、オリックス不動産株式会社
 主要用途：共同住宅・フィットネス施設
 敷地面積：15,646.67㎡
 建築面積：4,665.67㎡
 延床面積：97,041.46㎡
 構造：RC造(一部S造)
 規模：地上48階・塔屋1階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都港区芝浦4-20-2



ガーデニール砦^{*3}
 建築主：清水建設株式会社
 主要用途：共同住宅・店舗・保育所
 敷地面積：13,192.85㎡
 建築面積：7,637.16㎡
 延床面積：34,414.47㎡
 構造：鉄筋コンクリート造・鉄骨造
 規模：地下1階・地上10階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都世田谷区站2-14-12



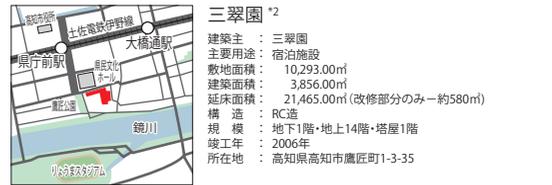
AQUA博多^{*2}
 建築主：福岡ビルディング株式会社
 主要用途：店舗・事務所・プライダル
 敷地面積：1,555.03㎡
 建築面積：1,219.24㎡
 延床面積：13,023.77㎡
 構造：S造
 規模：地下1階・地上12階・塔屋1階
 竣工年：2008年
 所在地：福岡県福岡市博多区中洲3-3-8



いすゞ自動車新車藤沢工場 新事務棟^{*2}
 建築主：いすゞ自動車株式会社
 主要用途：事務所
 敷地面積：1,126,221.81㎡
 建築面積：4,520.52㎡
 延床面積：30,948.59㎡
 構造：鉄骨造
 規模：地上9階・塔屋1階
 竣工年：2009年
 所在地：神奈川県藤沢市土俵8



KDX豊洲グランスクエア^{*3}
 建築主：清水建設株式会社
 主要用途：事務所
 敷地面積：20,448.87㎡
 建築面積：6,815.07㎡
 延床面積：63,661.47㎡
 構造：鉄骨造(柱CFT造)
 規模：地上10階・塔屋2階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都江東区東豊1-7-12



三翠園^{*2}
 建築主：三翠園
 主要用途：宿泊施設
 敷地面積：10,293.00㎡
 建築面積：3,856.00㎡
 延床面積：21,465.00㎡(改修部分のみ一約580㎡)
 構造：RC造
 規模：地下1階・地上14階・塔屋1階
 竣工年：2006年
 所在地：高知県高知市鷹匠町1-3-35



浅田鉄工東京支店
 建築主：浅田鉄工株式会社
 主要用途：事務所
 敷地面積：761.78㎡
 建築面積：342.28㎡
 延床面積：636.86㎡
 構造：鉄筋コンクリート構造
 規模：地上2階
 竣工年：2007年
 所在地：千葉県千葉市中央区中央港1-16-11



SIA町田
 建築主：株式会社シンプлекс・インベストメント・アドバイザーズ
 主要用途：店舗
 敷地面積：208.83㎡
 建築面積：1,219.24㎡
 延床面積：751.70㎡
 構造：S造
 規模：地上6階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都町田市原町田6



天王洲テラス^{*3}
 建築主：財団法人住宅総合研究財団
 主要用途：集合住宅
 敷地面積：555.03㎡
 建築面積：342.10㎡
 延床面積：3,133.91㎡
 構造：RC造
 規模：地上12階
 竣工年：2008年
 所在地：東京都港区港南5



五稜郭タワー
 建築主：五稜郭タワー株式会社
 主要用途：展望台・物販・飲食
 敷地面積：2,937.82㎡
 建築面積：2,343.28㎡
 延床面積：5,813.61㎡
 構造：タワー部：鉄筋コンクリート造
 展望台部・低層部：鉄骨造
 規模：地上6階・塔屋1階
 竣工年：2006年
 所在地：北海道函館市五稜郭町143-9



清水建設株式会社 技術研究所 新クリーンルーム実験棟
 建築主：清水建設株式会社
 主要用途：研究所
 敷地面積：24,589.59㎡
 建築面積：422.00㎡
 延床面積：1,560.00㎡
 構造：鉄骨造、免震、制震構造
 規模：地上6階・塔屋1階
 竣工年：2007年
 所在地：東京都江東区越中島3-4-17



女子美術大学 杉並キャンパス 食堂改修^{*2}
 建築主：学校法人女子美術大学
 主要用途：学校
 敷地面積：15,413.81㎡
 建築面積：2,270.55㎡
 延床面積：11,311.53㎡
 構造：RC造
 規模：地下1階・地上5階
 竣工年：2006年
 所在地：東京都杉並区和田1-49-8



港区立エコプラザ^{*2}
 建築主：神明開発株式会社(SPC)
 主要用途：環境学習施設
 敷地面積：2,061.72㎡
 建築面積：1,281.27㎡(建物全体)
 延床面積：13,023.63㎡(建物全体)
 構造：鉄筋コンクリート造
 規模：地下1階・地上17階・塔屋2階(建物全体)
 竣工年：2008年
 所在地：東京都港区浜松町1-13-4



聖路加産科クリニック
 建築主：財団法人聖路加国際病院
 主要用途：診療所
 敷地面積：425㎡
 建築面積：294㎡
 延床面積：1,722㎡
 構造：鉄筋コンクリート造
 規模：地上7階
 竣工年：2010年予定
 所在地：東京都中央区明石町1-24



アニマルバスウェイ 樹上性小動物の通り道^{*3}
 建築主：山梨県北州市
 主要用途：小動物の通り道
 敷地面積：-
 建築面積：-
 延床面積：-
 構造：吊り構造
 規模：最高高さ8.4m、全長13.57m
 竣工年：2007年
 所在地：山梨県北州市大泉西井出8240地先



和光本館^{*3}
 建築主：セイコーホールディングス株式会社
 株式会社和光
 株式会社和光
 主要用途：物販店舗
 敷地面積：924.38㎡
 建築面積：810.44㎡
 延床面積：7,597.81㎡
 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造
 規模：地下2階・地上7階・塔屋1階
 竣工年：2009年
 所在地：東京都中央区銀座4-5-11

*1 設計：清水建設
 *2 設計：清水建設
 +フィールドフォー・デザインオフィス(清水建設グループ)
 *3 他社共働
 青山OM-SQUARE
 デザイン監修：佐藤尚巳建築研究所
 インテリアデザイン：フィールドフォー・デザインオフィス
 照明デザイン：都市環境照明研究所
 サインデザイン：エモーション・ベース・デザイン
 ランドスケープ：クォーターマーケットデザインラボ
 ガーデニール砦レジデンス
 ランドスケープ：フィールドフォー・デザイン・オフィス+戸田芳樹風景計画
 KDX 豊洲グランスクエア
 監修：ケネティクス株式会社
 照明デザイン(吹抜周囲)：ライトデザイン
 共用部インテリア(吹抜周囲)：イメージ・ジェネレーション
 サイン：フィールドフォー・デザイン・オフィス
 ランドスケープ：フィールドフォー・デザイン・オフィス
 天王洲テラス
 インテリア：ポリティアンクー級建築士事務所
 アニマルバスウェイ
 アニマルバスウェイ研究会
 和光本館
 株式会社和光 デザイン：広報部(武蔵淳)
 フィールドフォー・デザイン・オフィス
 ライトデザイン：ワークテクト(金田憲志)
 緑物(壁装)：川島織物セルコン(加藤千明)
 サイン：井原理安
 什器(売場)：Jプロント建築

stream 2009
 DEW

委員長 藤本 裕之
 副委員長 黒田 健一
 委員 泉戸 隆志
 浅田 朋子
 石谷 貴行
 稲毛 誠
 内笹井敦史
 大西 宏明
 大橋 一智
 小倉 裕之
 柿澤 英之
 笠原真紀子
 河原崎澄子
 古株 友徳
 小松 裕幸
 重松 幸幸
 島崎 大地
 清水 信藤
 順一郎
 鈴木 淳
 早田 倫人
 高橋 千里
 手島 徹
 平賀 直樹
 福森 一紀
 間島 梓
 村上 孝幸
 森 亮人
 安廣 賢哉
 吉田 進一
 藤原 洋平
 事務局 吉田 郁夫
 発行日 2009年11月
 編集・発行 清水建設株式会社
 /設計・プロポーザル統括
 〒105-8007 港区芝浦1-2-3
 03-5441-1111(代)
 編集事務局 設計・プロポーザル統括
 企画管理部
 印刷所 (株)ピーディーシステム
 年1回発行予定

非売品

